

諏訪小だより

令和7年6月30日
多摩市立諏訪小学校
校長 斎藤 幸之介
7月号

「あのとき」子供たちが苦難を乗り越えたからこそ

校長 斎藤幸之介

2週間ほど前から毎日の最高気温が30℃を越え、猛暑日に迫ろうとする場合も見られるようになりました。

熱中症指数が28以上になる「厳重警戒」下ではグラウンドでの遊びや体育学習も控えなければなりません。冷房がかかった部屋での生活はおよそ快適ではありますが、しかし、子供たちの気持ちが満たされないでしょう。

これからのことを考えながら、私は「あのとき」を思い出していました。

5年半前の「あのとき」

それはおよそ5年半前、そうわが国でも新型コロナウィルスが話題に上るようになりました。すぐに感染が広がり、そして今の6年生は入学直後に2か月の休校になりました。

どうしてよいか分からなかったであろう子供たちはそれでもじっと耐えました。登校が始まても、マスクの着用などを始めとする制約が長く続きました。「密」「ソーシャルディスタンス」といった表現も用いられました。

「利他」といった言葉も多く聞かれるようになりました。自分と同時に他者も大切に、と考えながら、子供たちは嵐のような日々を生き抜いてきました。

平穏な時間にあの苦しさを思い出す必要はないかもしれません。しかし、私共には新たな課題が現れました。それは、冒頭に申し上げた、猛暑、酷暑です。

子供たちは、この状況に大いに戸惑いながらも自分たちが少しでも満足できる生活を送ろうとします。時に、それが学校という環境に適さない場合もあります。思い切り遊びたいのに遊べない、外での活動は制限される・・・。つい廊下を走ってしまう姿に「だって仕方がないじゃないか」と自身を納得させてしまう場面も見られます。

きっと「のど元過ぎれば」ではなく

今、確かに記憶には定かではないかも知れないうけれど、「あのとき」をどのように思い出すのでしょうか。のど元過ぎれば熱さ忘れる、ではありませんが、確かに新型コロナウィルス感染症が蔓延した「あのとき」はもう過去のこと、と片付けられてしまうのかもしれません。

しかし、子供たちは確かに頑張った、言われるままに、だったかもしれないけれど、苦しい状況下でもじっと耐え忍ぶ日々の過ごし方を学んでいます。だから、私は、まず「あのとき」

を踏まえながら現状を見、そして自分たちのあり方を考えてもらいたいと思っています。もつと言えば、今の子供たちだからこそ、一層深く今を的確に捉えられる、と思っています。

しなやかに、「竹のように」

私は、令和3年度諏訪小だよりの11月号に、「レジリエンス」を踏まえながら子供たちが運動会にどのように取り組むかを述べました。改めて確認をさせていただくと、レジリエンスとは弾力性、回復力、また物が跳ね返ること、すぐに立ち直ること、とされています。

かつて私の先達に「竹は暴風が吹いてもうまく風に任せ、折れないようにしなやかに曲がる」ことを例にレジリエンスを説いていただきました。

改めて、猛暑、酷暑という「暴風」にしなやかに対応していくことが求められる、と捉えています。「どうせ暑いんだから遊べなくて結構！」と半ば怒りに任せながら不満だけをぶちまけていても納得のいく解決にはつながらないかもしれません。とりあえず暑さは仕方がない、と受け止め、ならばどうしたらよいのかを模索することが重要になるでしょう。

例えば、計画実行委員会では、外で遊べない場合の対策を考えています。いずれ教員にも打診があり、その上で全校に伝えることになるでしょう。自ら対応するその姿は、見方によっては「しなかや」である、と捉えていますが、皆様はどうお感じでしょうか。

教職員にも「レジリエンス」を求めながら

教職員も、しなやかに対応する能力が求められます。杓子定規に対応しても、いずれ「例外」に直面した際には子供たちからの納得が得られない対応になる場合があります。もちろん「独善的」になることは避けたいところです。換言すれば、問われるのは「瞬時の適切な判断力」なのかもしれません。

登校後の時間をどうするか、今雲はどの程度出しているのか、風は心地よいかそれとも熱風か、と正直緊張の連続ですが、これも諏訪の子供たちのため、あります。私共も、「あのとき」に培ったものがありますので、これを想起しながら取り組むことを確認していきます。どうぞ御理解と御協力をお願い申し上げます。

<参考>

「子どもの「こころ」を育てるレジリエンスー」
深谷昌志監修 明治図書（2009年）

「セーフティ教室」

学校と地域が連携して子どもたちの安全を守ることをねらいとして、6月12日(木)にセーフティ教室を実施しました。低学年は、多摩中央警察の方々による「防犯・不審者対応」について、中・高学年は東京ファミリーeルールの方々から「SNSとの付き合い方」についてそれぞれ学びました。また、中休みには保護者・地域の方々を対象に「SNSと子供との正しい付き合わせ方」というテーマで、東京ファミリーe ルールの方による御講演をいただきました。今後も、地域・保護者・学校が一体となって諏訪地域の子どもたちの安全を守っていかなければと思います。

生活指導部

「水泳学習」

今年度も NAS 永山にて水泳学習を行いました。各学年が泳力別の班に分かれ、NAS 永山の指導員が泳力に合った指導方法で学習を行いました。泳ぐのが得意な子も苦手な子も自分のペースで練習を行い、泳ぐ距離を伸ばしたり、水に顔を浸けられるようになったり、と様々な変容が見られました。

水泳学習を一人でも多くの子が楽しいと感じられるよう、来年度の指導も NAS 永山と協力して行っていきます。

水泳担当

「ハケ岳移動教室」

6年生は、5月28日から30日にかけて移動教室に行ってきました。学年目標「Lead Oneself」を掲げ、教員も子どもたちもできる限りの準備をして当日を迎えたことで、自主的な行動が目立ち、自ら考えて行動する姿がたくさん見られました。

車山ハイキングやキャンプファイアで得られた一体感、係活動への取組で得られた責任感を、今後の学習や生活に活かしていくよう指導を続けていきます。

6年担任